

## 記者資料提供

県庁教育記者クラブ

資料提供日：平成 25 年(2013 年) 7 月 10 日(水)

説明年月日：平成 25 年(2013 年) 7 月 17 日(水)

午後 1 時 30 分から

解禁日：テレビ・ラジオ・インターネット 7 月 17 日(水) 17 時

新聞 7 月 18 日(木) 朝刊

説明場所：滋賀県立安土城考古博物館

機 関：公益財団法人滋賀県文化財保護協会

担 当 者：

(整理担当) 調査整理課 平井 美典

(現場担当) 企画調査課 中村 健二

T E L : 0 7 4 8 - 4 6 - 4 8 6 1

ファックス 0 7 4 8 - 4 6 - 4 4 0 2

E - mail : seirika@zc.ztv.ne.jp

---

## 件名

### 平成 25 年度 上御殿遺跡の調査成果について -滋賀県最多の馬形代と国内初の墨書人名土器が出土-

公益財団法人滋賀県文化財保護協会では、滋賀県土木交通部および滋賀県教育委員会からの依頼により鴨川広域基幹河川改修事業(青井川)に伴う天神畑・上御殿遺跡の発掘調査を平成 20 年度から実施しています。これまで、古墳時代前期の堅穴住居、奈良時代後半から平安時代初めにかけての建物・倉庫群、旧河道から奈良時代から平安時代の人形代、斎串、陽物代などの木製祭祀具、古墳時代前期の石釧など興味深い資料が出土しており、これらの内容については、資料の提供、公開を行ってきました。

5,000 m<sup>2</sup>を対象とした昨年度の調査で、平安時代の人形代等の資料の提供後、発掘調査でさらに多量の人形代が出土するとともに新たに県内で 4 遺跡目となる馬形代や人名の書かれた土師器の甕(墨書人名土器)が出土しました。今年度、これら木製祭祀具を含めた木製品の整理調査を実施しており、出土数で人形代は県内 2 番目、馬形代は県内最多となることがわかりました。また、墨書人名土器は、全国的にも類例がなく、多量の人形代や馬形代とともにこれらの遺物を用いた古代の水辺の祭祀跡の発見は古代祭祀の実態を明らかにする興味深い資料と言えます。

つきましては、今回出土しました祭祀遺物類をより多くの人々に、公開すべく、上記日程で記者資料説明会を開催しますので、その内容について、資料を提供します。

また、一般向けの展示および報告会も下記のとおり行いますので、併せてお知らせします。

## 記

- (1) 遺 跡 名 : 上御殿(かみごてん)遺跡
- (2) 所 在 地 : 高島市安曇川町三尾里
- (3) 調査期間 : 整理調査:平成 25 年(2013 年) 4 月～平成 26 年(2014 年) 3 月

発掘調査：平成 24 年(2012 年)4 月～平成 25 年(2013 年) 3 月

(4) 調査面積：約 5,000 m<sup>2</sup> (平成 24 年度)

(5) 調査主体：滋賀県教育委員会

(6) 調査機関：公益財団法人滋賀県文化財保護協会

①整理調査担当：調査整理課 課長心得 平井美典

発掘調査担当：企画調査課 副主幹 中村健二

②連絡先：近江八幡市安土町下豊浦 6678

TEL：0748-46-4861

FAX：0748-46-4402

現場携帯 090-5461-3096

(7) 速報展示および報告会

『あの遺跡は今！パート 17』にて遺物を速報展示し併せて報告会を行います。

①場所：滋賀県立安土城考古博物館

速報展示 館内調査整理課

報告会 2 階セミナールーム

②日時：平成 25 年 7 月 21 日 (日)

速報展示 午前 9 時から午後 5 時

報告会 午前 10 時 00 分から 午前 11 時 00 分

午後 1 時 30 分から午後 2 時 30 分

③その他：入場無料 (博物館の一般展示は有料 (400 円)。ただし、県内の方は無料となります。)

## 1. 調査の経緯と状況

鴨川の改修に伴う天神畑・上御殿遺跡の発掘調査については、平成19年に実施した試掘調査の結果に基づき、平成20年度2,700㎡、平成21年度3,800㎡、平成22年度2,250㎡、平成23年度2,450㎡、平成24年度5,000㎡、合計16,200㎡の発掘調査を実施しました。今回報告する人形代・馬形代、墨書人名土器は平成24年度調査の2本の川跡から出土したものです。

## 2. これまでの資料提供等

- ① 「こけら経の出土について」 平成22年2月17日  
一般公開 平成22年2月21日 安土城考古博物館 「あの遺跡は今Part10」
- ② 「大壁造り建物について」 平成23年5月9日  
一般公開 平成23年5月15日 現地説明会
- ③ 「中世の馬具（轡）が出土」 平成23年7月15日  
一般公開 平成23年7月24日 安土城考古博物館 「あの遺跡は今Part13」
- ④ 「古墳時代前・中期の土坑墓について」 平成23年10月18日  
一般公開 平成23年10月23日 現地説明会
- ⑤ 「奈良時代後半から平安時代初めの居宅や人形代や斎串などを用いた水辺の祭祀跡」 平成24年10月18日  
一般公開 平成24年10月23日 現地説明会
- ⑥ 「石釧について」 平成25年2月4日  
一般公開 平成25年2月9日～2月11日 イオンモール草津  
平成25年2月17日 安土城考古博物館 「あの遺跡は今Part16」  
平成25年2月21日～3月3日 高島歴史民俗資料館

## 3. 調査成果

### (1) 奈良時代から平安時代の川跡 (図2)

古墳時代前期から平安時代までの遺物を含む蛇行する幅約15～20m、深さ2.2mの川跡(16区S1・20区S20)とその川跡を切り込む幅約3m、深さ約2mの川跡(16区S25)から奈良時代から平安時代にかけての祓(はらえ)に関わる人形代、馬形代や墨書人名土器が出土しています。

### (2) 人形代について (写真1・2)

- ①点 数 16区S1から14点、16区S25から4点、20区S20から33点、計51点
- ②時 代 奈良時代(8世紀)から平安時代後期(11世紀から12世紀)
- ③出土状況 土器を伴わず2～6点程度がかたまって出土する場所と人形が馬形や土器などと一緒に出土する場所があります。
- ④形 態 短冊形の薄い板に切り込みを入れて、両腕と両脚、頭、肩を作り、頭は圭頭もしくは丸い形を呈しています。平安時代後期になると両腕の切り込みは施されなくなり、超大型のものを除くと小型化します。また、50点中27点には墨で顔の表現があります。
- ⑤大きさ 最大で、長さ65.6cm、幅11.0cm、厚さ0.8cm、最小で長さ10.7cm、幅1.9cm、厚さ0.3cm 平均は長さ15cm程度、幅3cm程度のもの

です。

- ⑥用途 病氣治癒祈願、呪詛（じゅそ）、祓や鎮物（しずめもの）などで人の身代わりとして使用されたものと考えられています。現在、神社で行われている紙製の人形に息を3回吹きかけて悪気や汚れを人形に移し、清らかな水に流す大祓と同じような使い方をされたと考えられます。
- ⑦類例 上御殿遺跡を除き、県内で19遺跡120点以上が出土しています。上御殿遺跡は甲賀市宮町（みやまち）遺跡の59点につき県内2番目の出土数です。3番目は長浜市大戌亥（おおいぬい）遺跡の19点で、紫香楽宮跡と考えられています宮町遺跡のような宮都を除くと、出土数が多いといえます。県内の人形代の大半が8世紀から9世紀の限られた時期であるのに対して、上御殿遺跡は12世紀頃まで人形代祭祀を300年以上も継続的に行っている点が他の遺跡とは違う点になります。

### （3）馬形代について（写真1・2）

- ①点数 16区S1から3点、20区S20から19点、20区S18から1点、計23点
- ②時代 奈良時代（8世紀）から平安時代（9世紀前半）
- ③出土状況 全体にかたまって出土しますが、人形代のように馬形だけで数点が重なる状況はあまり認められず、人形代などと混在するように出土することが多いです。
- ④形態 横長の薄い板材の四隅に加工を加えて、馬の側面を表現し、上辺には中央付近に鞍を表現したものと上辺中央付近に凹みをつけて、裸馬を表すものがあります。上御殿遺跡では裸馬の形態が多いようです。また、20点中数点には墨で顔の表現した痕跡があるものがあり、脚のつく非常に残りのよい馬形代も1点あります。
- ⑤大きさ 長さ15cm前後、幅3cm、厚さ0.3cm程度のもが多いです。
- ⑥用途 祭祀の際に奉獻する生馬の代わりに用いられたり、人形代と一緒に出土する場合などは罪汚れを背負った人形代を根の国に運ぶものとも考えられています。
- ⑦類例 県内で長浜市尾上遺跡、甲賀市宮町遺跡、野洲市西河原宮ノ内（にしがわらみやのうち）遺跡などで出土しています。宮町遺跡の3点よりも多く県内で最も多い出土数です。馬形代は人形代と違い、当遺跡でも8世紀から9世紀前半の限られた時期にしか使われていません。

### （4）墨書人名土器（写真3）

- ①出土状況 20区S20の人形代や馬形代が最も集中する付近の川の中に口縁部を上に向けた状態で出土しました。土器の底には直径約1cmの穴がけられています。
- ②時代 奈良時代（8世紀末）から平安時代（9世紀前半）
- ③特徴 小型の土師器の甕の体部に縦書きで等間隔に7列「守君船人（もりのきみのふなひと）」という人名を墨で書いています。
- ④大きさ 口径14.9cm、高さ12.7cm
- ⑤用途 守君船人（もりのきみのふなひと）という人名を7列にも墨書して

いる点から、この人物が祓に深くかかわっていることがわかります。底部は穿孔しており、日常の土器として機能を失い、仮器として用いられており、人形代や馬形代とともに悪気や汚れを水の流れて清める祓の重要な道具であったと考えられます。

- ⑤類 例 今回出土した墨書人名土器は県内にはなく、平城京や平安京でも出土例はありません。なお、この人名について特定できる資料は見つかっていません。

#### (5)その他の祭祀具

上記の他、奈良・平安時代の木製祭祀具として陽物代2点、舟形代2点、呪符木簡（じゅふもっかん）1点、斎串50点以上と祭祀具とは断定できませんが、文字の書かれた檜扇（ひおうぎ）などが出土しています。

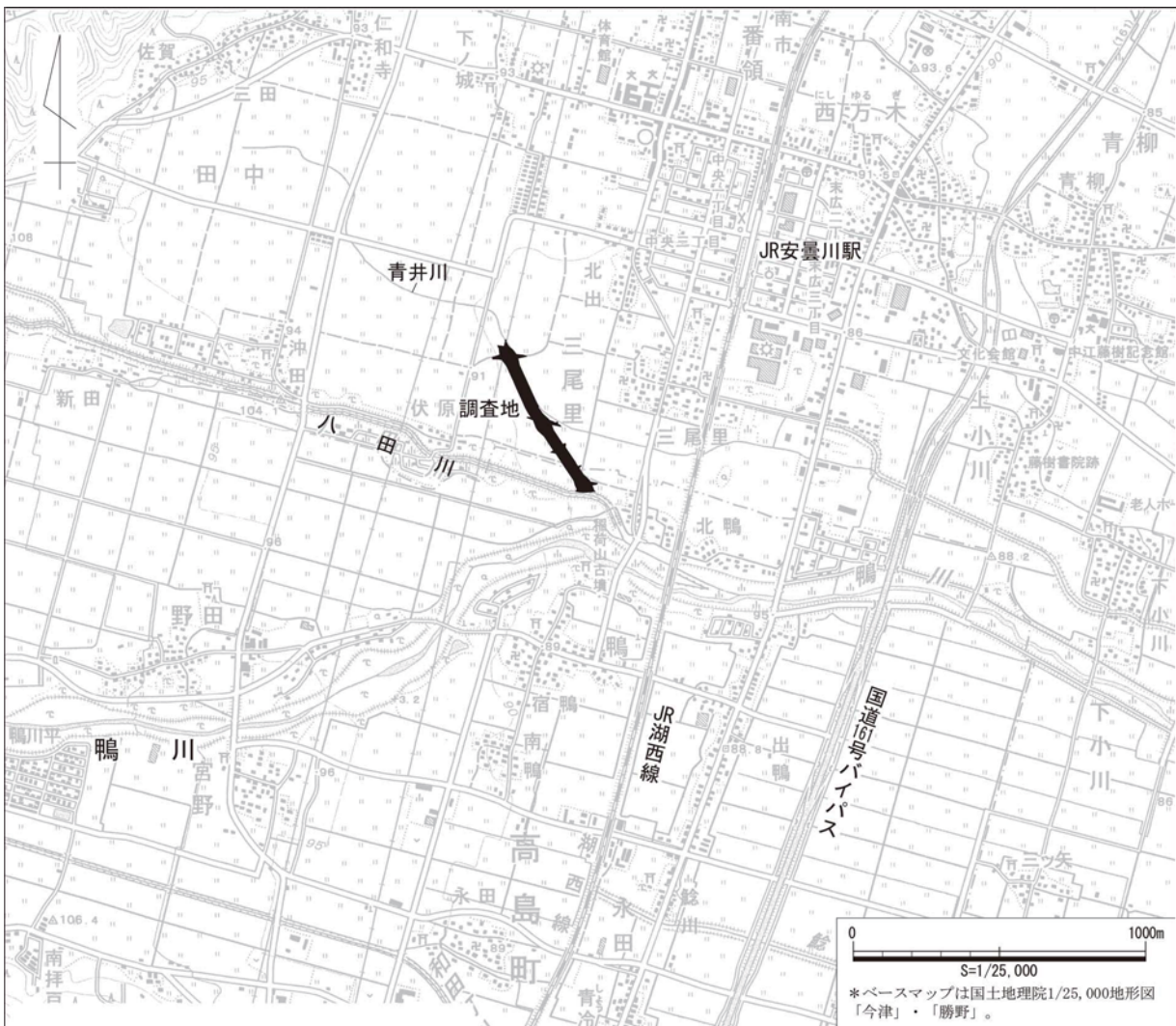
## 4. まとめ

上御殿遺跡は古代の港である勝野津に近く、古代北陸道および若狭とつながる主要街道が集束する交通の要衝にあり、古墳時代から高島市唯一の前方後円墳と考えられる鴨稻荷山古墳があるなど旧高島郡南部の重要な地域であります。

上御殿遺跡では、古墳時代から木製の刀形代や斎串を用いた水辺の祭祀が行われており、奈良・平安時代になりますと宮都や官衙関連施設で行われる人形代や馬形代を用いた律令的祭祀を取り入れた地域の重要な祭場を踏襲し、水辺の祭祀を連綿と行っていたことがわかりました。宮町遺跡に次ぐ出土数の人形代や県内最多の馬形代の存在は、奈良時代後半から平安時代前半にかけて、遺跡周辺に鴨遺跡などの官衙もしくは官衙関連施設が設置されるのとは無縁でなく、地域の祭場から地域の祭場と地方行政機関の祭場を兼ねる、湖西地域の重要な祭祀場所であったことを裏付ける可能性がでてきました。

一方、都城で多く見つかる墨書人面土器を用いた水辺の祭祀ではなく、類を見ない「守君船人」と7列に同じ人名を墨書した土器を祭祀に用いるなど、湖西地域の独自色を表すような祭祀状況も認められます。

なお、墨書人名土器につきましては、独立行政法人奈良文化財研究所都城発掘調査部史料研究室で判読いただきました。



人形代・馬形代出土調査区

図1 調査区位置図

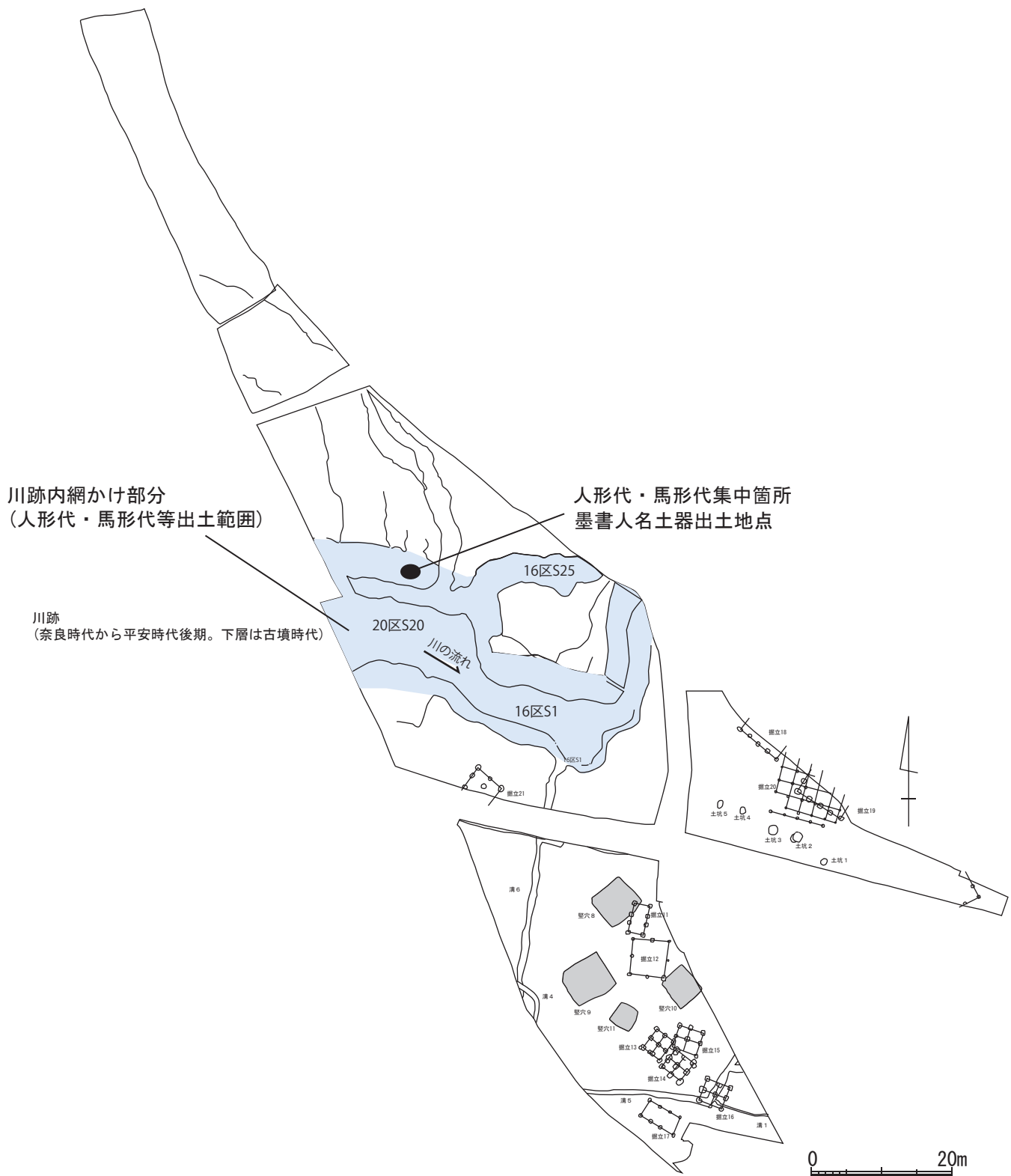


図2 平成24年度調査区遺構配置図(略図)



旧河道内人形代・馬形代出土状況（人形代と馬形代が混在して出土しています。）



旧河道内人形代・馬形代出土状況（中央は、脚のついた馬形代）

写真1 木製人形代・馬形代出土状況





写真2 出土木製人形代・馬形代（縮尺不同）



旧河道内人形代・墨書人名土器出土状況



墨書人名土器「守君船人（もりのきみのふなひと）」（縦書きに7列墨書しています。）

写真3 墨書人名土器

## 「守君船人」の墨書土器について

今回出土した「守君船人」の墨書土器は、人名とみられる記載のみであること、7行にわたって執拗に繰り返して記していることなど、従来の墨書土器には類例が全くない非常に特異な資料で、貴重な発見である。滋賀県内でも有数の量となる人形代・馬形代などと一緒に見ついていることから、祭祀具としての機能を考えるのが無難であろうが、近江国高島郡という一地域の水辺の祭祀にとどまらず、広く古代の祭祀のあり方を考える上で、重要な資料になると思われる。

また、「守君」は、美濃の豪族である牟儀君（むげつのきみ）と同族とされ（『新撰姓氏録』など）、水の祭祀に関わる氏族とみられている。近江国との関係を示す資料はこれまで六反田遺跡出土の墨書土器に「守君」と書かれたものが1点あるだけだったが、今回水辺の祭祀に関わるとみられる墨書土器に「守君船人」と書かれていたことは、「守君」が水辺の祭祀に関わる氏族であることを裏付ける重要な資料となろう。また、「守君」が近江国にも広く分布していた可能性を示唆する発見でもある。

渡辺 晃宏

(奈良文化財研究所 都城発掘調査部史料研究室長)